やなせたかしの生涯・アンパンマンと僕・梯久美子著
　アンパンマンはその優しい自己犠牲のキャラクターが
幼児に好まれ、アニメ化されてからは爆発的人気となり
絵本の売り上げ、アンパンマンミュージアムの入場料・アンパン
万グッズの累積の売り上げは７兆円に達し、このように
人気のあるキャラクターは世界でも数少なく、ディズニーの
ミッキーマウス・サンリオのキティちゃん、ポケモン、スパイダーマン
スーパーマンと並んで世界六位の地位を占めています。
　やなせたかしは 1919 年、高知で生まれ、小さい頃から絵を描くことが
好きだったので、東京高等工芸学校を卒業、田辺製薬の宣伝部に勤務しますが、まもなく
応召、戦後は三越に勤務した後、永六輔の「見上げてご覧・空の星」の舞台装置、手塚治虫のアニメーションのスタッフ作成の一員として働いたり、向田邦子のエッセーの挿絵をかいたり、宮城まり子のリサイタルのシナリオと舞台装置の設定、急に連載が休みになった漫画の代理執筆など、現在だったらマルチクリエーターとして高く評価される仕事ですが、当時はいわば裏方の仕事を長くつづけました。1969 年「優しいライオン」がアニメーションになり 1973 年ついにアンパンマンを出版、198８年 69 歳の時アニメ化されたのをきっかけにアンパンマンの人気がブレークしました。大器晩成型の漫画家・絵本作家と言えます。彼の心の中で、一番大切にしていたことは「逆転しない正義」で一兵卒として大陸で戦った体験、唯一人の弟千尋の戦死、戦前・戦中・戦後の価値観の違いを体験したことによってこの「逆転しない正義」をめざして、正しく、優しく生きると言うことが彼の仕事の根幹にあります。アンパンマンを好むのは２歳から５歳の純真無垢の幼児で幼稚園、保育園の図書室のアンパンマンはいつもボロボロになっています。お父さん、お母さんも子供にアンパンマンを読むことをせがまれ、多くの大人もアンパンマンのファンになりました。いわば幼児によって発見された作品と言えます。アンパンマンは世界の飢えている子供に自分の顔を食べさせてふらふらになります。それを助けるのがジャムおじさんで又アンパンマンの顔を作ってくれて、アンパンマンはまた飢えた子供達を助けに飛び立っていきます。アンパンマンはスーパーマンではなく、ジャムおじさんに助けられて、また元気を取り戻すのです。やなせたかしの作品を語る上で忘れられない人がサンリオの創業者辻信太郎で、最初は「山梨シルクセンター」で山梨の物産を売ってましたが、やがてやなせたかしの「愛の詩を出版」その後「詩とメルヘン」を月刊誌として出版、やなせたかしは「詩とメルヘン」の編集長になりました。アンパンマンの出版に際しても大きなバックアップをしました。キャラクター・キティちゃんなどを生み出してサンリオを世界的企業に育て上げた立志伝中の人物です。「詩とメルヘン」を愛読していたドキュメンタリー作家梯久美子さんはやがてサンリオに就職、やなせたかしが編集長をしていた「詩とメルヘン」の編集を手伝い、やなせたかしを師とあおいでいます。アニメ・「それいけ・アンパンマン」のためにやなせたかしはアンパンマンのマーチをつくりました。それは「そうだうれしいんだ　生きるよろこび　たとえ胸

のきずがいたんでも　何のために生まれて何をしていきるのか　こたえられないなんてそんなのはいやだ今を生きることで　熱い心燃える　だから君は行くんだ　ほほえんでそうだうれしいんだ生きるよろこび　たとえ胸がいたんでも　ああアンパンマン優しい君は行け、みんなの夢をまもるため　という歌詞ですが、最初にやなせたかしが書いた歌詞はこれとは少しちがいます。冒頭の三行は「そうだ　うれしいんだ　生きるよろこび　たとえ命が終わるとしても」

命が終わる、つまり死が生の前提にあることをたかしは伝えようとした。子供むけ、しかもテレビという媒体があることを考慮したのか最終的には胸の傷としました。

命はいつかは終わる、けれどもそれはすべての終わりを意味せずだから生きるなことはむなしいことではない　と言うことをたかしは伝えたかったのだと思います。「やなせたかしの生涯」を読んだ人達は
心がぽかぽかト暖かくなることを感じると思います。